

移動式クレーンを起因物とする飛来・落下の死亡災害発生事例（1999-2020年）

発生年	発生月	発生時間	死傷災害発生事例	小業種コード	労働者規模
1999	4	16～17	マンション新築現場で、足場板15枚を55tクローラクレーンで吊り上げていたときに、玉掛ワイヤーから荷が抜け落ちてきて下にいたガードマンと激突した。	170201	10～29
1999	12	15～16	落石防止柵として打込んでいたH型鋼(長さ8m、重さ800kg)を移動式クレーンで引き抜いて吊り上げた状態で根元に付いているコンクリート塊(200kg)をブレーカーで小割して剥がした直後に、玉掛用具からH型鋼が外れて落下し、ブレーカーの運転席に倒れて運転者がH型鋼の下敷きになった。	30106	10～29
2000	6	17～18	倉庫新築工事現場において、積載型トラッククレーン(2.9t)で運搬してきた鉄骨を荷台から降ろす作業中に、荷台端に2段に重ねてあった鉄骨の1本が崩れたため、崩れた鉄骨付近で合図と玉掛け作業を行っていた者が地面に投げ出され落下してきた鉄骨(600kg)に頭を直撃された。	30201	50～99
2000	3	10～11	資材置場において、ドラグショベルを用いて簡易土止め支保工を積載形トラッククレーンで荷台上に積載しているときに支保工が荷台から落下、その下敷になった。	40301	10～29
2000	1	16～17	35tトラッククレーンで船内から巻き取りロール紙5個吊をり上げたところ、起伏用ワイヤーロープが切れ、同時にジブが前に倒れたためデッキ上の合図マンがジブに挟まれた。	50202	10～29
2000	6	9～10	吊り上げ荷重2.93tの積載型トラッククレーンで石膏ボードを満載した鉄製容器を荷台へ積み込む作業を行っていたときに、横のコンテナの上の角材(0.3×0.3×4m)に容器が接触したため、角材が落下しクレーン運転者に当	150102	1～9

			たった。		
2000	9	11 ～ 12	2. 9t吊り積載型移動式クレーンでバケツを吊り立坑内(深さ6. 4m)に降ろしてコンクリートの打設作業を行っていて、最後のコンクリート量の調整を行い、半分ほど残ったコンクリート(推定400kg)を上を引き上げ中にワイヤーロープが切れてバケツが立坑内に落下し、中で作業中の者の背中を直撃した。	30110	10 ～ 29
2000	7	13 ～ 14	工場新築工事において、2名でトレーラーに積まれた鉄骨梁10本(H型鋼2段積み)をホイールクレーン(35t)を用いて荷卸しするため、クランプで玉掛けしようとしたH鋼の隣接の1本が荷台から落下し、傍に居たトレーラーの運転手に激突した。	40301	10 ～ 29
2000	6	13 ～ 14	橋の上部工工事において、トラッククレーンでコンパネ40枚(約450kg)を固定した番線にチェーンを掛けて地切り(約50cm)し、玉掛け用チェーンに付替えようとして吊荷の下に通したが途中で止まったため、吊荷の下に身体を入れてチェーンを引き出そうとしたときに、番線が切れて荷の下敷きになった。	30105	10 ～ 29
2000	3	16 ～ 17	積載型トラッククレーン(2. 93t)で荷台から型枠材30本1束を積み降しているときに、玉掛け用具のチェーンが切断し、アウトリガー上でクレーン操作を行っていた者に吊荷が落下した。	30105	10 ～ 29
2000	10	7 ～ 8	吊り上げ荷重2. 9tの積載型トラッククレーンのサイドあおりを倒して、クレーンで鉄板(質量800kg)の積み込み作業中、鉄板を荷台に降ろしたときにスリングロープが鉄板の穴から外れ、荷台横の路上にいた者が鉄板とブロック塀との間に挟まれた。	30209	1 ～ 9
2001	6	15 ～ 16	マンション新築工事において、小型移動式クレーンで運んだ木製の梁受けをクレーンの荷台から降ろす作業をリモートコントロール装置を使用して行っているときに、玉掛け用つりチェーンの一部が破断して吊り荷が落下し頭部に激突した。	30201	1 ～ 9
2001	8	15 ～ 16	杭打工事において、クローラークレーン(吊上げ荷重50t)の主巻フックに接続されている天秤にベッセルを装着するために天秤から玉掛けワイヤーを外し主巻フックを自由降下したときに補巻フックに取付けられているキャップと接触したため、天秤が主巻フックから脱落し真下で作業を行っていた者の頭部を直撃	30199	30 ～ 49

			した。		
2001	9	9 ～ 10	建設工事現場において、濁水処理装置(重量約1.5t)を2.9tの移動式クレーン(トラッククレーン)で荷卸し中、濁水処理装置が移動式クレーンのフックとともに移動式クレーンの荷台に落下し、地面に横転したため、荷卸しの誘導員が濁水処理装置の下敷きになった。	30102	30 ～ 49
2001	8	7 ～ 8	直径1.5m、長さ3m、重さ3.34tの基礎杭工事用のアースオーガのケーシングをクローラクレーン(吊り上げ荷重35t)でトラックに積み込み中、介錯ロープがケーシングにからまったので取り外そうと近づいたときに、クレーン運転者が自由下降の足踏みブレーキを放してしまったため、ケーシングが落下し激突した。	30201	10 ～ 29
2001	10	11 ～ 12	タワークレーンの解体で、移動式クレーンの補巻(能力6.75t)を用いてクレーンのジブ(重さ4.6t)を吊上げたところ補巻ワイヤーロープが切れジブが落下し、フレーム上で介錯作業に従事していた者にジブが激突し、そのままフレーム下部ステージまで墜落した。また、ジブが落下するときに下部ステージに激突し、そこで別の作業をしていた者も地面まで墜落した。	30201	10 ～ 29
2001	10	11 ～ 12	タワークレーンを解体する為、移動式クレーンの補巻(能力6.75t)を用いてタワークレーンのジブ(重さ4.6t)を吊上げたところ、補巻ワイヤーロープが切れジブが落下した。この時、Aフレーム上で介錯作業に従事していた被災者にジブが激突したと思われ、そのままAフレーム下部ステージまで墜落。また、ジブが落下途中Aフレーム下部ステージに激突しステージごと落下。そこで別の作業をしていた被災者も地面まで墜落した	30201	30 ～ 49
2002	1	16 ～ 17	移動式クレーン(25t)で鋼矢板(長さ9.5m、重さ約600kg)の吊り上げ作業中、玉掛け用シャックルから鋼矢板が外れて激突された。	170209	50 ～ 99
2002	6	8 ～ 9	木造家屋新築工事の現場に床合板(910×1820×25、数量18枚、質量約600kg)を小型移動式クレーン(つり上げ荷重2.93t)で搬入し、足場上に置きしちのち建屋側に搬入するため再度クレーンで巻上げたところ、クレーンのワイヤーロープが切断して材料と小型移動式クレーンとの間に挟まれた。	40301	1 ～ 9

2002	9	14 ～ 15	直径3.0m、深さ6.5mの掘削穴の中からボーリング用のケーシングパイプ（10本；200kg）を移動式クレーン（吊上げ荷重2.52t）で吊上げているとき、移動式クレーンのワイヤーロープが切断したためつり荷が穴の中にいた者の上に落下した。	30108	1 ～ 9
2002	9	10 ～ 11	港湾荷役で使用したトラッククレーンのタワー（約6t）部分を港で解体してトレーラーで自社の土場に運搬し、所定置場に置くためトラッククレーン（吊上げ能力35t）で吊上げて左旋回させたところ、側方吊りの位置でクレーンが傾いたため、荷の振れ止めロープを持って荷とともに移動してきた作業者の頭部に荷が落下した。	50202	50 ～ 99
2002	8	9 ～ 10	ダイオキシン対策のための焼却設備の増設工事において、屋根（高さ約15m）に設けた開口部からトラッククレーンで荷（質量約4 t）を吊り上げて搬入中、屋上の雨除け用シートの重しに使用していたH鋼に吊荷が接触したため、H鋼（長さ4m、質量約200 k g）が落下し、一度ダクトに当たってバウンドしたのち足場上で荷を待っていた者の背中に激突した。	30302	10 ～ 29
2003	7	11 ～ 12	推進工法による下水道工事において、直径2.6m、深さ6mの発進たて坑の中に移動式クレーン（つり上げ荷重2.95t）でヒューム管（重さ250kg）を降ろしていたときに、巻き上げワイヤが切断したためヒューム管が落下し、たて坑の中にいた者に激突した。	30110	1 ～ 9
2004	9	10 ～ 11	建築材料（重量600kg）を移動式クレーンでつり上げ移動中、つり荷が足場に接触、落下し、つり荷の下で準備作業を行っていた被災者に激突した。	40301	10 ～ 29
2004	12	10 ～ 11	2階木造家屋建築工事の骨組み作業で、被災者は2階床張りした箇所柱と梁等とに専用金具を打ち込んでいるとき、移動式クレーンで2階から組み上げるための柱材の束をつり上げて合図を待っていたところ、何らかの原因で柱材が束ごと飛来落下し、被災者に当たった。	30202	1 ～ 9
2004	6	9 ～	工事現場において、車両積載形トラッククレーンで現場内で不要となった建築資材を2階バルコニーから地上へ荷降したところ、つり上げた荷資材（床用下	30199	10 ～

		10	地ボード、重量約315kg) が荷崩れを起こし地上へ落下し、トラッククレーンの近くにいた被災者に激突した。		29
2004	3	11 ~ 12	カムシャフト研掃装置新設工事現場にて、バケットエレベーターのケーシングを組み付けるため10t移動式クレーンとチェンブロックを用いて当該ケーシングをつり上げていたところ、つり荷が横転、落下し、玉掛けを修正しようとしていた被災者が当該吊荷と床の間に挟まれた。	30302	1 ~ 9
2004	8	16 ~ 17	空倉庫の重量約1.4tの天井走行式ホイストクレーン（つり上げ荷重2.8t）のガーダをホイールクレーンの吊上げ荷重1.4t補巻フックで吊上げ、撤去する作業中、ガーダが約3.5mの高さから地上に落下し、地上にいた被災者に当たった。	40301	30 ~ 49
2005	10	13 ~ 14	鉄骨の解体作業において、小型移動式クレーンのフックにつりクランプ取付け用ワイヤを玉掛けし、H鋼の中心付近に1点つりをしながら溶断作業中、突然フックからつりワイヤーが外れ鉄骨が下にいた被災者に当たった。	30209	1 ~ 9
2005	4	17 ~ 18	2階建て木造家屋建築現場において、2階床部に仮置きしていた断熱パネル板（重さ60kg）を外壁に取り付けるため、移動式クレーンを用いクランプでつって移動させている際、クランプが外れ荷が落下し、その下で断熱パネル板の取付け作業中の被災者に激突した。	30202	10 ~ 29
2005	3	9 ~ 10	岸壁に接岸した貨物船内から、コンテナ（重さ24トン）を移動式クレーン（つり上げ荷重80トン）でつり上げ作業中、突然、ジブが倒れ、つり上げていたコンテナが船内で作業していた被災者に落下した。	50202	30 ~ 49
2006	3	13 ~ 14	資材置き場において、25トン移動式クレーンを用いてログハウス建築資材（5.8t以、長さ10m、横1m、たて2.7m）を移動中、過負荷防止装置を解除し作業していたため、当該移動式クレーンが前のめりになり、つり荷が落下、その下で作業していた被災者が下敷きになった。	30309	1 ~ 9
2006	4	8 ~ 9	加工工場を組み立てた金属製型枠4組を4.9トントラッククレーンで擁壁構築現場に据え付ける作業中、コンクリート擁壁の金属製型枠4組のうち2組目を据え付けた直後、運転者がトラッククレーンのワイヤロープを巻き上げたときに吊り具のフックが金属製型枠にかかったために当該型枠が倒壊、下方に待	11509	30 ~ 49

			機していた被災者に激突した。		
2006	3	11 ~ 12	移動式クレーン（つり上げ荷重16トン）を使用して、番線で結束した単管（直径48ミリメートル、長さ4.5メートル）100本（約1.2トン）を、つり上げ所定の位置に降ろそうとしていたところ、地上から約7メートルの高さにあったつり荷が突然落下し、ちょうどつり荷の下をくぐろうとした被災者がつり荷の下敷きとなった。	40301	30 ~ 49
2006	6	11 ~ 12	22KV電線路新設に伴う接近樹木伐採工事において、すでに倒木してあった樹木の搬出作業をクレーンを使用して実施していた。枝のみを吊り上げようと荷作り玉掛けし、吊り上げたところ幹から切り離されていない枝も玉掛けしていたため、幹の片側が吊り上げられ被災者の方へ旋回した。直後に枝が根本付近で折れ、幹の部分が被災者に倒れかかり、被災した。	30309	1 ~ 9
2006	7	14 ~ 15	高炉の改修工事にて、関連設備（鉱石中継室）の新築建屋から隣接する建屋への渡りデッキを取り付ける作業中、移動式クレーン（25t）でデッキ枠に縞鋼板を2枚のせた状態の荷をつり上げ、チェーンブロックを使用して位置決めをしていたところ、デッキの上にのせていた縞鋼板1枚（2185×1290×4.5：重さ約101kg）が約11m落下し、地上にいた被災者にあたった。	30209	10 ~ 29
2006	7	15 ~ 16	事業場の駐車場にて4t車両積載形トラッククレーンにより解体工事用アタッチメント（大型ブレーカー）を吊り降ろしていた際、大型ブレーカーが吊りフックから外れて、被災者の上に落下した。	30201	10 ~ 29
2006	10	8 ~ 9	型枠材のアルミ製ゲージを25tラフテレーンクレーンの補巻を使用してつり上げ、地上高1.5mの位置で旋回移動中、2点吊りを行っていた玉掛けワイヤロープから、ゲージが抜け落下し、一方が地面に接触し、その反動で被災者側に倒れてきて挟まれ死亡した。吊っていたゲージは、2束（17本と71本がそれぞれ結束されている計91本）、総重量約900kgであった。	30209	10 ~ 29
2006	10	8 ~	建設工事現場において、吊り上げ荷重2.93tの車両積載形トラッククレーンで材料（合板49枚、約600キロ）を荷下ろし作業中に、吊っていた荷が足場の建地上部（約7m）に触れたので回避しようと操作したところ、玉掛け	40301	10 ~

		9	していた荷が崩れ落下し、荷台上にいた被災者に落下した。		29
2006	12	13 ~ 14	採石プラント解体工事現場において、解体した機械（ロッドミル）の架台（縦6740mm、横3660mm、高さ1010mm）を2段に積み、その上に鉄製とい（長さ7030mm、幅395mm、高さ450mm、重量約700kg）を乗せ、ホイールクレーンにて架台ごとまとめて吊りあげようとしたところ、固定されていなかったといが落下し被災者に激突した。	30302	10 ~ 29
2006	12	14 ~ 15	移動式クレーンでトラックに鉄骨を積み終えたところ、荷台右前方の鉄骨が荷台からはみ出していた為、移動式クレーンを使用し微調整していたところ、荷台の左前方に積んであった鉄骨が落下し、荷台の左前方にいた被災者が鉄骨の下敷となった。	170101	1 ~ 9
2007	12	8 ~ 9	建売住宅建築現場において運送会社の運転手がプレカット材の束（重量約1.2t）を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）でつり上げ、荷降ろし場所に旋回しジブを伸ばしたところ移動式クレーンが傾き荷台の別のプレカット材の束など（重量約1.3t）が落下し、つり荷の触れを抑えていた被災者を直撃した。	40301	30 ~ 49
2007	9	13 ~ 14	車両積載形トラッククレーンを用いて、縦1.5m、横3.1m、厚さ2cm、重量約800kgの鋼板を一本づりでつり上げ、トラックの荷台に積み込む作業中、鋼板長辺中央部の穴にフックを掛けて運搬していたところ、鋼板がフックから外れて落下し、当該鋼板の下敷きとなった。	11301	30 ~ 49
2008	5	9 ~ 10	神社に設置された3本の鳥居のうち1本を撤去作業中、被災者は中央の鳥居の解体後、別の鳥居の近くに廃材を運び出す作業をしていた。別の作業者が廃材を車両積載形トラッククレーンに積むため、クレーンのブームを玉掛け位置まで伸ばした後、被災者の作業を手伝うためクレーンから離れたところ、ジブが伸びて鳥居の上部（笠木）にぶつかり、笠木が鳥居の下で作業をしていた被災者に激突した。	30199	1 ~ 9
2009	11	9 ~	被災者は、市内の電柱移設工事現場において、積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.83t）を用い、運搬してきた電柱（長さ15m、重量1.18t、数量5本）	40301	10 ~

		10	の荷降ろし作業中に、同トラックの荷台上において電柱1本を玉掛けしつり上げたところ、クレーンのワイヤーが破断し落下した荷が被災者に激突した。		29
2009	12	14 ～ 15	クレーン機能を備えたドラグ・ショベルで、鉄板（重量約1.5t）をダンプトラックの荷台へ積み込む作業中、つり上げた鉄板を荷台に降ろそうとしたところ、鉄板が荷台からはみ出していた。このため、鉄板の位置を調整しようとしてドラグ・ショベルを旋回させたところ、鉄板がダンプトラックのあおりに激突し、そのはずみでつりチェーンのフックから鉄板が外れ、玉掛けをした被災者に落下した。	30106	30 ～ 49
2009	6	8 ～ 9	産業廃棄物中間処理施設内において、被災者と重機オペレーターが重機（グラップル）を使用してステンレス製タンク（重量約310kg）をつり上げ、コンテナボックスに投入する作業を行っていた。その際、被災者がつり上げられたタンクの位置を調整していたところ、重機のフックに玉掛けしていたワイヤロープが外れ、落下したタンクにはさまれた。	150102	10 ～ 29
2010	3	12 ～ 13	積載型移動式クレーンに鉄筋材料を積み込む作業で、材料を積み込むために使用する橋形クレーンの走行上に当該移動式クレーンのジブが掛かるためジブを旋回させたところ、ジブがすでに積み込み固定する前の長さ9.9mの鉄筋の束接触し、鉄筋が被災者の上に落下したもの。	40301	10 ～ 29
2010	7	9 ～ 10	工場（S造平屋建）解体工事現場において、25tラフタークレーンを用いて、鉄骨の梁（H鋼、重量約1t）を2本つり上げて左旋回中、ブーム全体が右方向にしなりだし、慌てて右旋回をしたところ、補助ジブ（2段）の先端側の根本部分から折れ曲がったため、つり上げていた鉄骨の梁が、次の鉄骨のボルトを外していた被災者に落下したもの。移動式クレーンの定格荷重を超えたとみられる。	30201	1 ～ 9
2011	9	11 ～ 12	工場の敷地内にある屋外コンクリート製品置き場において、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93トン）を使用してL字型の擁壁用ブロック（製品荷重約2.5トン）をリモコン操作により荷台に積み込む作業をしていたところ、当該クレーンの旋回ポストの取付ボルトが破断し、旋回ポストが荷台側に傾き、L字型の擁壁用ブロックが荷台に落下し、被災者が当該ブロックの下	40301	10 ～ 29

			敷きになった。		
2012	7	10 ～ 11	被災者他3名で墓石の設置作業を行っていたところ、被災者がトラッククレーン（2.63 t）を操作していた際に、吊り荷の墓石（約200 k g）が被災者の頭上に落下して死亡した。	30309	1 ～ 9
2012	1	13 ～ 14	木製型枠を積載型トラッククレーンの荷台に積んで、資材置場に向かって県道走行中、積み荷が崩れそうになったため、被災者は路肩にトラックを止め、三段ある積み荷の最上層をクレーンで吊ったところ、二段目の型枠の束（長さ4 m×幅25 c mの木製型枠が約20束、重さ約200 k g）が荷崩れし、その下敷きとなり死亡した。	30201	10 ～ 29
2012	5	7 ～ 8	被災者はガントリークレーンの塗装工事準備作業として、足場資材を当該クレーン上部に荷上げする準備作業を開始。当該作業は、吊上荷重100 t 移動式クレーンの最長ジブでの作業が必要なため、補助ジブを主ジブ横に取付後、オペレーターが主ジブを起伏した際に補助ジブが外れ、移動式クレーン上の補助ジブ直下付近にいた被災者2名の内1名が、補助ジブとアウトリガーにはさまれ死亡し、他1名は重傷を負った。	30209	30 ～ 49
2012	7	12 ～ 13	駐車場建設工事現場において、被災者が65 t 吊りのクローラクレーンの主巻の玉掛け用具に掛けられていた荷の玉はずしを終えた後、次の作業に移るため、クレーン運転手が主巻フックを巻上げ、補巻フックを巻下げたところ、高さ11.8mの位置の補巻フックに掛けられていた玉掛け用具（約20kg）が落下し、その下にいた被災者の頭部に激突した（保護帽の着用有り）。なお、災害発生時に主巻・補巻共に荷を吊っていなかった。	30201	1 ～ 9
2012	6	14 ～ 15	小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.95 t、建柱車仕様）を用い、コンクリート製電柱（2.59t、長さ17.05m）を当該車両の荷台に積み込むため、電柱を1本づりで約1mつり上げ、被災者が電柱の一端を押しながら電柱を回転させていた際、前方のアウトリガーが浮き上がり、車体がつり荷側に傾いて電柱が落下し、被災者が電柱の下敷きになった。	30301	1 ～ 9
			建築現場において移動式クレーンを使用し、荷（押出成形セメント板）を地上から6階まで揚重中、高さ約20メートルの位置において、荷が玉掛用具から		

2013	11	14 ～ 15	外れて落下し、地上で玉掛けを行っていた被災者の頭部に当たった。尚、荷は、長さ2.5m、幅60cmの板8枚、重量約780kgであり、玉掛用具は、ランサーと呼ばれる荷取り治具にナイロンスリングを取付たものであった。	30201	10 ～ 29
2013	6	10 ～ 11	工場内の岸壁付近に設置したクローラクレーンを使用し、木製パレットに鉄板約10枚（1枚の重さ20～50kgの鉄板を積み重ねた状態）等を載せた荷を、岸壁に接岸していた貨物船の船倉に降ろすため巻下しの作業を行っている際、木製パレットに載せてあった鉄板が落下し、合図を行っていた被災者に当たった。	11209	30 ～ 49
2014	9	9 ～ 10	建設工事現場にて、灰分散装置を据え付けるため、移動式クレーン運転士に合図し、つり上げて移動していた際、つり上げた灰分散装置が建屋のコンクリート製梁に接触し、状況を確認しようと立ち位置を変えていたところ、玉掛けしていたクランプが外れ、灰分散装置が落下し、被災者の方に倒れかかり、コンクリート基礎の間に挟まれた。	30201	10 ～ 29
2015	2	10 ～ 11	雑木林で伐倒された玉切材（原木丸太）を、事業主が操作する小型移動式クレーン（通称ユニック車）の荷台へ積み込む作業中、被災者が当該玉切材から離れようと一歩後ろに下がったとき、斜面に足を取られ約1.7m下に転落した。その直後、吊り荷である玉切材の隣にあった別の玉切材が斜面を転がり出し、被災者の胸部に乗り上げた。当日15時16分胸部重症外傷により搬送先の病院にて死亡。	30309	1 ～ 9
2015	6	11 ～ 12	回転炉の移設工事において、排気ダクトの解体作業を行っていた際、ダクトを移動式クレーン（つり上げ荷重50トン）で玉掛けし、保持した状態で、移動はしごに労働者Aが上り、ガス溶断により、壁面からダクトを固定していたステーの切り離しを行ったところ、ダクト中間部辺りの接合面（フランジ）のボルトが破断し、ダクトが中折れ、落下し、労働者A、Bに激突した。（A：重傷、B：脳挫傷により約31時間後に死亡）	30302	1 ～ 9
			前日に引き抜かれ、公道の脇に横置きされたコンクリート製電柱（長さ14		

2015	5	10 ～ 11	m、外径30cm、重量約1t)を指定された場所へ運搬するため、労働者2人で、積載型トラッククレーン(つり上げ荷重2.9t)の荷台へ積込む作業を行っていたところ、使用していた玉掛用ワイヤーロープが当該クレーンのフックから外れて落下し、直下にいた被災者が下敷きとなった。同僚は、当該クレーンを運転していたが、負傷はなかった。	40301	30 ～ 49
2017	7	16 ～ 17	足場の材料を積載型トラッククレーンの荷台に当該クレーン(つり上げ能力3t未満)を用いて積む作業において、玉掛者(被災者と別人)が単管パイプ(長さ1m)約50本を番線で結束したもの2束をスリング2本で玉掛けし、被災者がリモコン操作で吊り上げて回転させながら荷台の方向へ歩行していたところ、吊荷の単管パイプが高さ約3mの位置から落下して被災者に当たった。	30201	1 ～ 9
2018	11	14 ～ 15	クローラクレーン(つり上げ荷重120トン、トラスジブ2段)のジブ解体作業にて、2段目のジブを1段目ジブ下部に格納、固定し、下向きになったジブ固定用ワイヤーロープのストラットを敷鉄板の上に置き、ジブ下部にてジブ先端に取り付けたカメラの配線、その他のケーブルの取り外し作業を行っていたところ、敷鉄板上ストラットが前方に滑り、そのはずみでジブがコンクリート床に落下しジブ下部で作業していた4名が被災した。	30201	10 ～ 29
2019	11	10 ～ 12	ユニック車の車載の移動式クレーンを用いてグラウンドアンカー(橋の補強に使う鉄骨)を吊り上げ、移動させようとした際に、車体が傾き、荷台に積んでいた別のグラウンドアンカーが滑り落ち、被災者の背中に滑り落ちたグラウンドアンカーが激突し、事前の作業で置かれていたグラウンドアンカーとの間に挟まれた。	11209	1 ～ 9
2019	5	8 ～ 10	倉庫解体工事現場において、被災者一人で歩道の敷鉄板を積載型小型移動式クレーン(つり上げ荷重2.93t)を用いて当該クレーンの荷台に積み込み作業を行っていた。敷鉄板積み込み作業場所から「ドン」と音がしたので、廃材の仕分け作業を行っていた別の作業員が音のした方を振り向いたところ、被災者が敷鉄板1枚(縦1.53m、横3.05m、重量約800kg)の下敷きになっていたものである。	30209	10 ～ 29

2019	3	12 ～ 14	被災者は、携帯電話基地局に使用されていた電柱（長さ15m、重量約2.2トン）を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重：2.93トン）に積み込む作業中、荷台前方の鳥居部の助手席側に電柱の先端を一旦載せ、鳥居部の運転席側に電柱先端部をずらそうと荷台上でリモコンを操作し、ジブを伸ばして荷台後方に電柱を引いたところ、鳥居部から電柱の先端が落ち、過荷重でジブが折れ、電柱が落下して被災者に当たった。	40301	10 ～ 29
2019	3	12 ～ 14	電波塔を建設する工事において、塔の基礎となる立坑（深さ約6.3メートル、直径1.43メートル）を掘削中、内部の掘削した土砂を容器に入れて搬出するために移動式クレーン（つり上げ荷重2.37トン、カニクレーン）を用いて吊り上げていたところ、巻上用ワイヤロープが切断したため吊り荷とフックが落下して立坑の底部で作業をしていた被災者を直撃した。	30209	1 ～ 9
2019	2	10 ～ 12	被災者は、工事現場内に設置された外部足場13層目作業床で、足場から躯体側に身を乗り出して外壁にトタンを貼る作業を同僚2名と行っていた。一方、別業者の作業員が移動式クレーンにより床材8枚の躯体内への搬入作業を行っていた。その際、吊り荷である床材の1番上の1枚（鋼製、長さ約2m、幅約30cm、重さ約25kg）が被災者らの作業していた足場と躯体の間に落下し、作業中の被災者の顔に当たり死亡した。	30201	30 ～ 49
2020	10	8 ～ 10	ホイールクレーン（吊り上げ荷重25t）の補助フックが作業開始前に、動かなかったため、補修のためジブを下げている途中、補助フックを支えていたワイヤーが切れ、補助フック（約70キロ）が落下し、被災者の頭部に当たったもの。	11501	1 ～ 9
2020	1	16 ～ 18	浮きクレーンのクレーン部解体作業中、クレーンのフレームに吊り下げ固定されているカウンターウェイト（28t）の固定用ボルトを溶断して外したところ、当該カウンターウェイトが落下し被災者2名に接触、うち1名が死亡したもの。	80409	10 ～ 29

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202207_01.html